

第9回福祉用具展示研修会セミナーのご案内

A：「国際生活機能分類（ICF）概念に基づく生活機能障害の理解」
 ～生活機能と環境因子の相互作用を踏まえて～

時間：14：00～15：30

講師：一般社団法人福祉用具活用相談センター 理事長 吉川和徳様

B：第1部「新化する多職種連携～入院中・退院後の実践報告～」
第2部「新化する歩行リハビリテーション～HONDA歩行アシストとロボット
スーツHALを用いた実践報告～」

時間：18：30～20：30

講師：森山メモリアル病院 地域ケア支援センター 居宅介護事業部 部長 理学療法士 小林浩様
 森山メモリアル病院 リハビリテーション部 係長 理学療法士 齊藤浩平様
 富良野協会病院リハビリテーション科理学療法主任 理学療法士 杉澤裕之様
 老健ふらの理学療法科長 理学療法士 千葉恒様
 かわむら整形外科リハビリテーション科長 理学療法士 前田健太郎様
 訪問看護ステーション東光ぬくもりポート 理学療法士 中田有香様

この度毎年恒例となりました福祉用具展示会を平成 29年 11月 14日(火)～15日(水)の2日間の日程で「新化する地域サポート」をテーマに開催させていただき運びとなりました。展示会のなかで2つのセミナーを企画しております。最新の介護ロボットや福祉用具・機器も展示しておりますのでこの機会に是非ご来場いただきたいと思ひます。

お申込

FAX：0166-49-7171

参加無料

11月14日 [火] (展示会1日目)			定員
A	「国際生活機能分類（ICF）概念に基づく生活機能障害の理解」	14：00～15：30	30
B	多職種連携-入院中・退院後の実践報告 & 歩行アシスト機器を用いた歩行リハビリテーション	18：30～20：30	150

-----切り取り-----
 セミナー参加申込書

貴社名（施設名・病院名等）：

職業	お名前	参加希望記号
1	様	
2	様	
3	様	
4	様	
5	様	
6	様	
7	様	
8	様	

職業	お名前	参加希望記号
9	様	
10	様	
11	様	
12	様	
13	様	

準備の都合上、11月1日(水)までにご返信をお願い致します。



株式会社 マルベリー さわやかセンター旭川
 〒079-8414 旭川市永山4条8丁目1番32号
 TEL (0166) -46-3084 FAX (0166) -49-7171
 実行委員：上田啓輔・星慶樹・村山兼一

—研修内容—

A：「国際生活機能分類（ICF）概念に基づく生活機能障害の理解」

～生活機能と環境因子の相互作用を踏まえて～

時間：14：00～15：30

講師：一般社団法人福祉用具活用相談センター 理事長

吉川和徳様（理学療法士／介護支援専門員／シーティング・コンサルタント）

内容：ここ数年のベッドを取り巻く技術進歩には目を見張るものがあります。

一方で、そのような機能に目を奪われて、改善すべき生活機能障害の分析がおろそかにされたりベッドは大差ないと、どれでも同じと安易に考えたりしていないでしょうか？

この研修ではベッドが活動や参加に与える影響を例にベッドの選び方、使い方を様々な角度から考えます。

B：第1部「新化する多職種連携～入院中・退院後の実践報告～」

第2部「新化する歩行リハビリテーション～HONDA 歩行アシストとロボットスーツ HAL を用いた実践報告～」

時間：18：30～20：30

●第1部 18：30～19：30 「新化する多職種連携～入院中・退院後の実践報告～」

講師：森山メモリアル病院 小林浩様

入院中の多職種連携の実践報告：富良野協会病院 杉澤裕之様

退院後の多職種連携の実践報告：訪問看護ステーションぬくもりポート 中田有香様

内容：「よい連携ってなんだ？」

地域包括ケアを実践するために必須な連携。実際どうすればよい連携が取れるのでしょうか？連携を新化させるためにはどうしたらよいのでしょうか？

この研修では入院時と退院後の多職種連携の実践報告をもとに「よい連携」をみなさんで考えたいと思います。

●第2部 19：30～20：30

「新化する歩行リハビリテーション～HONDA 歩行アシストとロボットスーツ HAL を用いた実践報告～」

講師：富良野協会病院 千葉恒様

HONDA 歩行アシストを用いたリハビリテーション：かわむら整形外科 前田健太郎様

ロボットスーツ HAL を用いたリハビリテーション：森山メモリアル病院 齋藤浩平様

内容：「歩行リハビリテーションが新化している！」

セラピストが行う基本動作練習の中で誰しもが行うであろう歩行リハビリテーション。

現在歩行アシスト機器の誕生によりセラピストが行うリハビリテーションも新化しています

この研修では、歩行アシスト機器を用いたリハビリテーションに精通された先生の実践報告をもとに「歩行リハビリテーションの新化」について考えたいと思います。